No.341

客船よもやまばなし

＜連載(118)＞

北海道・離島の旅

大阪府立大学海洋システム工学科教授
池　田　良　穂

夏休み を利用して北海道へのドライブ旅行を楽しんだ。まずは、大阪から北海道まで移動しなければならない。家族の中に犬が二匹いるということもあって、自家用車での旅行を余儀なくされる。最近は、長距離カーフェリーの中にもペットルームを設けている船も多いので、カーフェリーの旅はペット連れには便利である。しかし、夏休みがとれたのは、ちょうどお盆の真っ盛り。カーフェリーの切符の手配に一苦労することとなった。知合の旅行業者に新日本海フェリーの高速カーフェリーの敦賀～小樽間の予約の手配をお願いした時点には、返事は「満船状態でキャンセル待ちにしてみます」とのこと。各フェリー会社に電話で問い合せしてみても、空いている会社は全くなかった。最悪の場合には、陸路青森まで走って、海峡横断フェリーを利用して北海道へと渡ろうと覚悟を決めた。

幸い、出発の1ケ月ほど前になって、旅行会社から「キャンセルがでたので席が押えられました」との連絡。新日本海フェリーの系列の旅行業者であったことが幸いしたのかもしれない。ようやくカーフェリーでの北海道旅行が実現した。

新日本海フェリーの敦賀航路の高速カーフェリーは、30ノット近い航海速力を誇る韋駄天フェリーで、1泊2日、約21時間で敦賀と小樽を結ぶ。船の名前は「すずらん」と「すいせん」。いずれも石川島播磨重工で建造された新鋭船で、毎年もっとも脚光を浴びた新造船舶に授与される日本造船学会の「シップ・オブ・ザ・イヤー」を見事に射止めた長距離カーフェリーである。この姉妹船が、毎日23時30分発で運航されている。料金は、3人家族と2匹の犬、そして乗用車を乗せて、1等キャビン使用で、往復13万円あまり。飛行機を利用するのに比べるとずいぶんお得である。

敦賀までは、高速道路を使えば大阪から4時間ほどで到着できるから、夕方に大阪を出

発すれば十分に間に合うという都合の好さ。お盆の帰省ラッシュで高速道路の渋滞も考えられたので、4時には大阪を出発したが、渋滞にも巻き込まれず、出港の3時間も前に敦賀に到着してしまった。フェリーターミナルには「すいせん」が到着したばかりで、トラック等の荷下ろしの真っ最中であった。同船は、3時間の停泊時間の間にすべての荷役を済ますという大変効率のよい荷役体制をとっている。

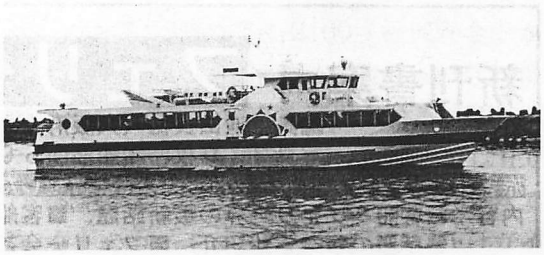
出港の約1時間前に乗船。2匹の愛犬をペットルームに預けてキャビンに入る。1等洋室を借切りの形で利用したが、家族で使うにはなかなか快適なキャビンであった。大浴場で汗を流し、デッキで営業中のビアガーデンで一服。生ビールがうまかった。23時半、定刻に敦賀の桟橋を離れた「すいせん」は一路日本海を北上しはじめた。

翌日フェリーの中で、ビデオを見たり、サウナに入ったり、卓球をしたりしているとあっという間に夕方。グリルで予約していたディナーをとった。和食と洋食のチョイスがあるが、ステーキがメインディッシュの洋食を選んだ。

定刻より若干早い20時10分に小樽港に到着。近くの公園で、ペットの散歩をさせた後、高速道路を利用して札幌へと向った。

北海道では、まだ訪れたことのない天売島・焼尻島へ渡るのが一番の楽しみであった。この航路には、オロロンラインの愛称で親しまれている羽幌沿海フェリーが、カーフェリータイプの「フェリーおろろん」と高速旅客船「さんらいなあ」を運航している。同航路には、貨客船タイプの「天羽丸」が就航するころから、一度は乗りたいと思っていたものの機会はなく、今回が初めてである。羽幌に到着したのが夕方だったので、島に渡るのは翌日ということになった。

朝一番に、羽幌の港に行くと、埠頭には「フェリーおろろん」と「さんらいなあ」の2隻が停泊していた。行きは「フェリーおろろん」で、帰りは「さんらいなあ」に乗船することに決めた。犬も乗船させてよいかどうか



羽幌～天売島・焼尻島を航行する「フェリーおろろん」（左）と「さんらいなあ」

を聞くと、「ゲージに入れていればいいですよ」とのこと。乗船してから、ブリッジの見学をお願いしたところ、快く受入れてもらえ、ブリッジで船長から航路の話や、2隻の船の建造中のお話を聞くことができた。「さんらいなあの船長も船の好きな人ですよ」とのことで、帰りも楽しみになった。

天売島には、1時間半の航程である。海も静かで、快適な航海であった。「今日は特別静かですが、夏でも風が吹けば結構きついですよ」という船長の言葉に、小型船で離島航路を維持する大変さをかいま見た気がした。

天売島では、小さなバスによる島内一周観光。犬を連れてもOKとのことで、ペット連れで約1時間の観光を楽しむことができた。8月も半ばなので、オロロン鳥をはじめとする海鳥もほとんどいなくなっていたのが残念ではあったが、次回に来る時の楽しみが残った。

帰りに乗船した高速旅客船「さんらいなあ」は、「フェリーおろろん」と同様に、横浜ヨットの建造した船である。旅客定員200名で、航海速力は25ノット。約1時間で天売島と羽幌との間を、焼尻島経由で結んでいる。乗船してブリッジに挨拶をすると、「フェリーおろろんから連絡がありました」と言って船長が名刺を差し出した。この船長のお名前を見てびっくり。昔から、筆者の発行する船の本や雑誌の愛読者としてよく名前を記憶している「佐藤民夫」という名前があったからである。「さんらいなあの船長をされているのですか！」、「フェリーおろろんの船長が、大阪の大学で造船を教えている先生が乗船してくると無線で言っていたので、池田さんじゃないかと思っていました」。帰りの航海は、まさにあっと言う間であった。

新刊書案内 **フェリー・客船情報'98**

編集：池田良穂（大阪府立大学海洋システム工学科教授）　A4版201ページ
写真270枚、船舶図面50枚、発行：船と港編集室、定価：12，800円

旅客船、カーフェリーに関する情報を満載した「客船の年鑑」。旅客船の運航者、建造技術者必携

内容：■客船・フェリー界の最新話題、■客船建造で活躍する造船所（インキャット、三菱下関）■話題の新造客船紹介、■フェリー会社紹介、■高速カーフェリー視察記、■客船の技術（シーマージン、バリアーフリー、波浪中運動制御、自動係船装置など）、■乗船記（さんふらわあいぼり他）、■新造客船紹介

注文方法：一般書店では扱っていませんので、船と港編集室（〒593-8303 堺市上野芝向ケ丘町1-23-1-420）までファックス（0722－70－0612）にてお申し込み下さい。